日本口腔インプラント学会
第21回関東甲信越支部総会
学術大会

プログラム・抄録集

会期：平成14年2月10日
会場：都市センターホテル
主催：日本口腔インプラント学会関東甲信越支部
大会長：深井 貞樹
主幹：日本インプラント臨床研究会
サイナスリフト・洞内突出インプラント周囲の組織像

I 目的。我々はサイナスリフトにおける骨造成の組織学的観察をするためイヌ前頭洞を使った一連の動物実験を行っている。今回、インプラント体が洞内に突出した例についてその周囲の組織学的観察を行ったので報告する。

II 材料および方法。総和成犬33匹、66側の前頭洞を使用した。全身麻酔下、前頭部露出後、左右前頭洞に5×7mm大の骨開窩（65洞）、挐上洞粘膜下空隙形成（63洞）後プローマルクインプラントを植立（46洞）、各種補填材を塗布したものを（50洞）、洞粘膜の縫破のものを（2洞）、開窩せずにインプラントを直接洞内に穿孔植立（1洞）など各種の設定に応じた処置を行った。観察期間は1週、1, 2, 3, 6ヶ月であった。所見は前額断したものを肉眼的および組織学的に観察した。

III 結果。インプラントが既存骨に位置し、肉眼でその一部が挐上スペースを超え、洞内に突出しているものを対象とした。10例で洞内に突出したインプラントを観察した。このうち4例は組織学的にインプラントの突き出た部分が洞粘膜で被覆されていたが、残りの6例は被覆されていなかった。

IV 考察および結論。肉眼での洞内突出インプラントの頻度は30.3%と一部、図示的な例があることを考慮しても、比較的高かった。更に、既存骨での骨結合の有無、補填材の有無と種類、周囲の炎症の有無との関係等につれて検索し、洞内突出インプラントを臨床的にどう扱うか、検討した。